

<重点行動の観察と記録>

担当：小林明子

A君 3歳7ヶ月 診断名：自閉症 訪問開始時期：2016年4月

セラピスト訪問開始当初お父様とセラピストの2人でA君のセラピーを担当。セラピストは週に1回の訪問であった。お母様も7月よりA君のセラピーに参加できるようになり、セラピストも7月7日から、週に2回の訪問に変更となる。

観察する行動

動作模倣、音声指示のレパートリー数

測定方法

毎回のセラピーの始めに今まで習得した動作模倣や音声指示をランダムに提示した。1回目でプロンプトなしで出来たものをレパートリーとみなした。8月3日の時点で大きな身振りの動作模倣に関しては初めての動作も模倣できるようになったことから、測定を止め、翌週から音声指示のレパートリー数のみを測定した。

介入方法

1回目でセラピストの動作模倣が出来なかった場合、身体プロンプトを用いた。プロンプトは徐々にフェイディングした。音声指示に関しては、指示を出しながらセラピストは動作模倣を見せた。動作模倣も少しずつフェイディングし、プロンプトなしでできるようになったところからすでに習得している音声指示とのランダムローテーションを行った。

観察期間

2016年4月20日～9月15日

